



笠原 則孝

観光資源を掘り起こし、

町のPRに活用すべきだ

町情報発信機能を高め、町の観光資源の魅力を町内外に伝えたい

Q

あと1年弱で高崎玉村スマートICが開通する。来年の4月には東毛広域幹線道路も全線開通となり、玉村町の交通の利便性は飛躍的に向上する。平成27年には道の駅もできる予定だが、町はどのように観光資源を掘り起こし、町のPRと知名度アップを図る活動をしていくか。

〔町長〕 玉村町には、花火大会を初め、歴史的な資産、地域の伝統的なめずらしい祭りなど、年々知名度が高まってきている観光資源がある。しかし、それらが十分認識されていないのが現状である

Q

玉村町は、合併せず自立を選択したが、住民はどのようになっているのか調査したことがあるか。

〔町長〕 住民に対するアンケート調査は行っていない。また、今後その予定はない。

ため、マスコミやライター、またたんの活用、観光情報ホームページの充実、高速道路マップや観光情報誌への広告掲載などを積極的にやっていく。平成27年完成予定のたまむら道の駅(仮称)は、町の玄関口であるスマートIC近くに建設されるため、町外からも多くの人が利用することが予想される。この好立地条件を生かして、町の物産・グルメの販売だけでなく、情報発信拠点として十分に活用したい。



日光例幣使道沿いに建つ赤煉瓦倉庫

役場周辺の公共施設等の整備充実には、総合的な管理が必要では



石内 國雄

町 「役場周辺地区高度利用計画検討委員会」を設置した

Q

町が使用している役場周辺の公共施設は、総合的な管理が必要と考える。借りて使用している施設等については、土地の取得なども含め、今後の管理方針をどう考えているか。施設の充実・整備の計画はあるか。

〔町長〕 庁内に「役場周辺地区高度利用計画検討委員会」を4月に設置した。年度内には計画が策定となるよう進めたい。

Q

専門的な開発のプロを委員会に導入する考えはないか。

〔町長〕 外部の力をいいただくという事で検討している。

Q

たまむら道の駅(仮称)の事業運営・管理の主体はどうなるか。

〔町長〕 具体的な検討はこれからとなる。道の駅(仮称)建設委員会で検討を開始した。全体を統括する駅長、農産物直売所組織の会長、食肉販売の店長、地域物産品の店長などを組織し、物産館の運営を考えている。公募をして、運営主



齊藤 嘉和

農業を取り巻く課題と農協との関係について

町 関係機関等と十分に協議したい

Q 道の駅に併設する農産物直売所の出品者の確保は進んでいるか。

〈町長〉 J Aの直売所に出品している方は、手法を熟知しているため、ぜひ協力してほしい。また退職した方にも新たに挑戦していただくなど町民に門戸を広げ、生きがいの一つになればと考えている。

〈町長〉 町では、ごみを減らし、CO₂の排出抑制を進めている。野菜農家の方には、ナス・トマト・キュウリ等の残渣は、堆肥化を

お願いしたい。全く受け入れの余地がないということが。

〈生活環境安全課長〉 特例として、事業系一般廃棄物として受け入れることもある。その場合、誘引のネットやひもを取り除く必要がある。

〈町長〉 畦畔とは規模

も量も違う。地域の環境に大きな影響を及ぼすため、燃やすことはできない。

〈町長〉 日ごろからの管理をお願いしたい。JAたまむら支店が来年度建設されるといふ。町に対して、要望があれば協議

か。

する考えがあるのとこのだが、どう対応するか。

〈町長〉 町では役場周辺地区における公共サービス提供施設及び駐車場の確保等を含む総合的な高度利用を推進するため、庁内に検討委員会を立ち上げた。その推移によって協議したい。

野菜農家の方は堆肥化にご協力を



こんな議案を審議しました

そこが聞きたい一般質問

委員会のつづき

その他



Q 道の駅・物産館の完成後、その維持運営のために必要な町の財政負担は。

〈町長〉 当初から物産品が過不足なく供給でき、利用者が多い状態であれば、町の財政負担は1〜2年程度で維持管理に対する負担はなくなると考えている。

Q 町民の交流などを考えているならば、町民の意見を反映できるように、建設委員会に町民を入れるべきと考えるかどうか。

〈経済産業課長〉 事業が進んでいったときには、必要の人を入れていくことになっている。



役場西側周辺の航空写真（玉村小学校上空）